玩具の船が
ありました

青いフィルターが
かかったような

ディオラマめいた
夜の水辺

それは三角形の
スクリーンのように

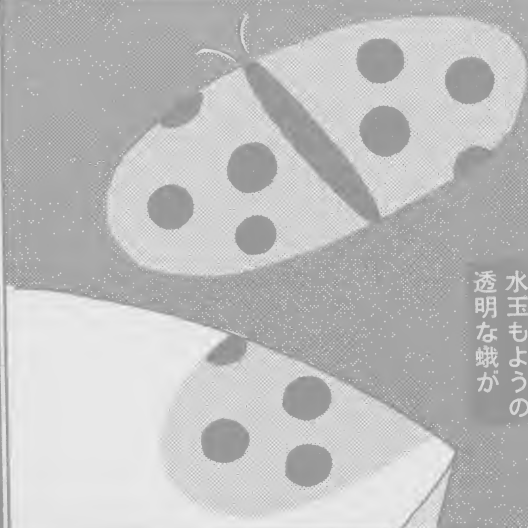
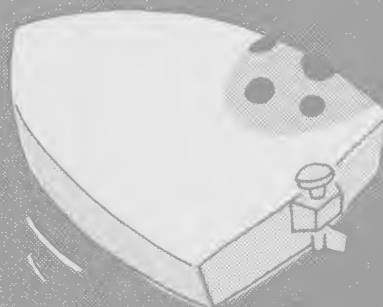
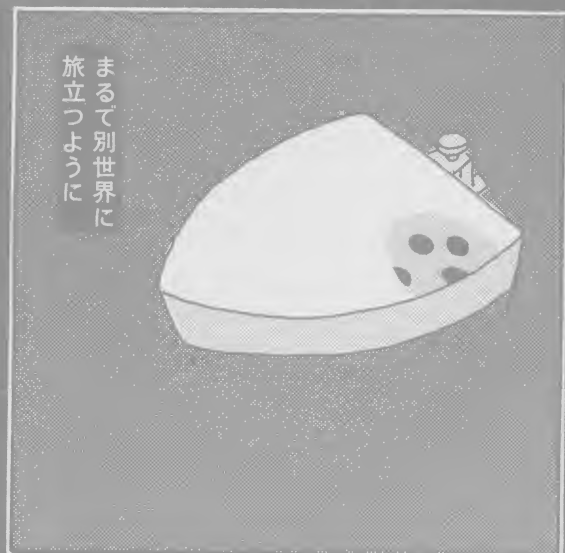
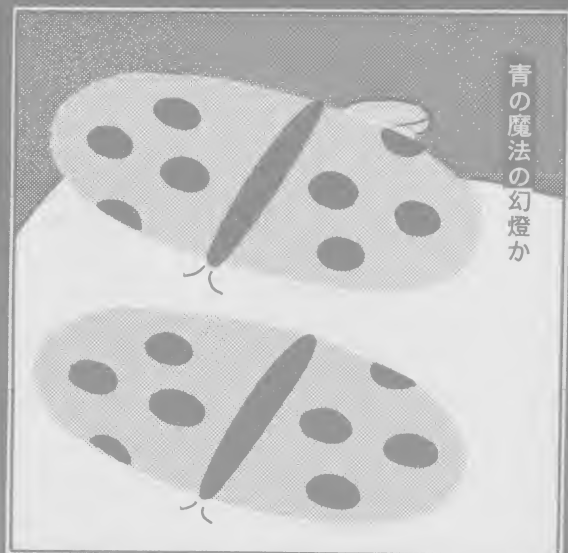
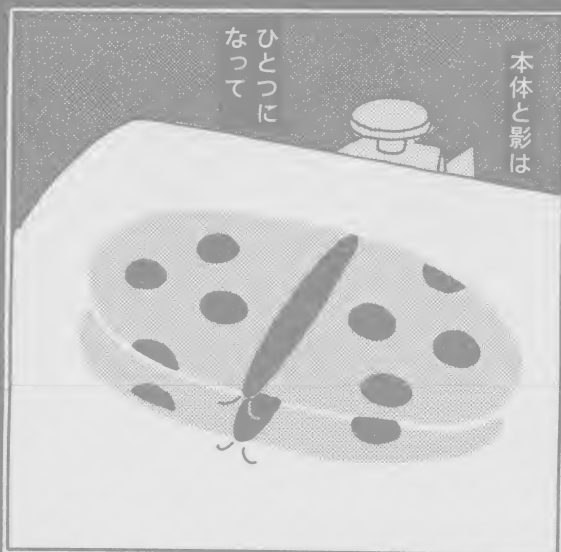
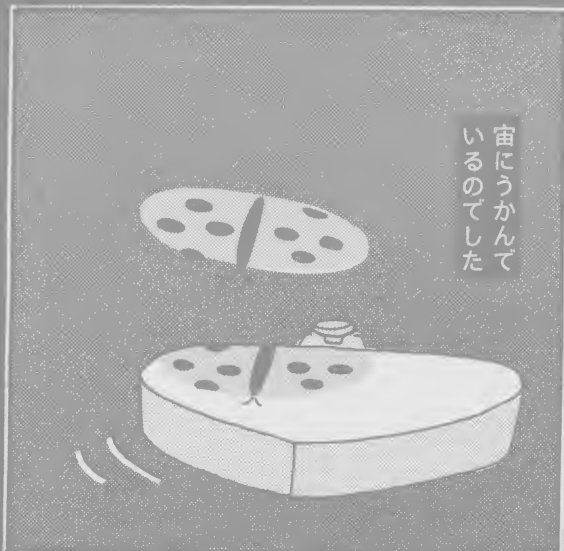
ぽっかりうかんで
おりました

羽ばたきもせず
影をおとして

宙にうかんで
いるのでした

青の魔法の幻燈か

本体と影は
ひとつに
なって

まるで別世界に
旅立つように

スクリーンの外へ
消えました

END

話題の特殊ハンドメイドビデオ!!

噂どうり、発売が**7月30日**に遅れてしまい、大変御迷惑をおかけしております……。が!! ナンと60分の予定が**90分弱**にふくらんで、内容もさらに盛りだくさんになった!!

〈GARO VIDEO 第一弾〉
ガロ漫画家ダイナマイトクレージーパーティ!!

TELEGRAM ガロ

ご予約お申し込み方法
料金3,560円(定価3,200円+送料360円)を現金書留又は郵便振替(東京0-135477)にてお送り下さい。

ガロビデオ第一弾の「テレグラムガロ」は、ビデオ業界では信じられない、**ハンドメイドビデオ**です。企画・イベントから始まり、今は美術編集のスタッフが、**驚くべき低予算**で、手間ヒマかけてコツコツと作り上げている途中です。普通だったら誰もこんな事はやりません。しかし、**ガロはやってしまいました**。

このビデオを作った目的は、ビデオの最初に収められている、**長井会長**の挨拶の中に全て含まれております。これはビデオを手にしなければ見られない、**貴重な言葉**であります。

小社では、このビデオ販売のためあるヒミツのイベントを企画しております。今回は、ナント、関西でも何かをしでかすつもりです。決り次第、誌上にて発表致します。

滅多にお目にかかれぬ 豪華な出しモノ!!

みうらじゅんと大島渚

幻のバンド〝ヴァギナーズ〟のナオミがみうら氏と合体して登場。その美しすぎる姿に、会場は騒然!! 連載漫画「アイデン&ティティ」のテーマソングや、あの名曲「カリフォルニアの青いバカ」のロックンロールで全員立てノリに。ベースの喜国雅彦、ギターの和嶋慎二の熱演も光る!!

しりあがり寿（漫画紙芝居）

本邦初公開!! ワケあって未発表のままの傑作漫画を、自ら心をこめて朗読!! このビデオを手に入れた人だけが目にできる、アブナくも貴重な八頁。会社帰りそのままの姿もまた怪しいナゾの漫画家に、会場の女性は次々に失神!?

根本敬（イイ顔特殊講演）

特殊漫画大統領秘蔵のコレクション、〝イイ顔〟の写真二千枚の中から、自ら選りすぐった〝超イイ顔〟を、堂々とスクリーンに映し出す。大統領いうところのイイ顔の定義が、今、ここに明かされた。渋谷のオシャレなライブハウスで、こんな講演がなされたのは世界で初めて。わかる人にはわかる、わからない人は死ぬまでわからない、特殊講演だっ!!

久住昌之とモダンヒップ

軽快なリズムでいきなり天狗の唄をうたってしまう、センスバツグンのこのバンド。よおく歌詞をきいてみれば日常の事細かな人間の心理がコミカルに唄われている。中でもバツグンに素晴しいのはやっぱり「モーレツにウンコがしたい」だ。思わずうなずいてしまうそのおかしさに、会場も大爆笑!!

内田春菊とアヴェックス

アデヤカッ!! マンボのリズムで飛び出したマッカなミニ姿で、元気に踊る姿に、男性からの熱い視線!! スローな曲では舞台に寝ころがり、甘いため息のような歌声で熱唱!! 観るも良し、聴くも良し!! ラスト曲「炎」では、観客全員のハートに火をつけてしまった、甘くて熱い悩殺のステージ!!

泉晴紀（豪快絵師秘話）

名コンビの久住昌之氏と共に、名作、「豪快さんだっ!」の漫画とビデオスチールをスクリーンに映し出し、豪快なキャラクター『大文字虎男』のヒミツを暴く。日本の漫画界に新たな世界を確立した、日本一の豪快絵師の素顔もまた、ここに堂々と暴れたっ!!

平口広美・ひさうちみちお（アダルトナイトの調べ 関東編、関西編）

泣く子も黙るあの容姿に加え、前歯を4本も抜いてさらに迫力を増した関東代表のバイオレンス平口と、針金のように細身ながらも、比叡颪できたえられたオシャレとスケベの翼を持つ天使!? かもしれない関西代表のパースペクティブひさうちの両氏の登場は、漫画界広しといえども、やはりガロならではのキャスティング!! スクリーンに次々と映し出されるエロの芸術に、会場の女性三人が早くも……。

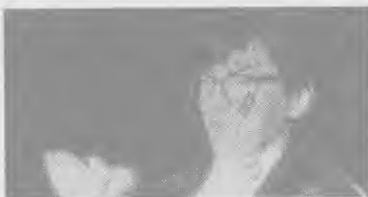
蛭子能収（ヨイトマケロック）

今や、国民のオモチャと化してしまった彼だが、きのう今日ファンになったくらいではわからない、イイ味を目いっぱいためこんでラストを飾るヨイトマケロック。アカペラで延々と歌い続けるヨイトマケロック。しかし、みうら氏の策略で意外なラストを迎える運命に……。マッド蛭子だけに許された、前代未聞のエンディング!!

井口真吾（華麗なる手品）

新刊「Z・CHAN」が話題の氏が、こともあろうに、とっておきの目のさめるような手品を披露。高校時代、近所の子供を集めてはその前で手品を訓練したという努力が今ここに花開いた。プロも驚く夢のペテン師的手さばきは、バックに流れる「オリーブの首飾り」と共に、客席を魅惑の世界へと誘う。

大越孝太郎 安彦麻理絵 石川次郎

ガロの若手作家を代表して舞台に上った三人。司会の杉作J太郎のつっこみにも動ずることなく飄々としたうけ答えで観客を点目にする。さすがはガロの漫画家。早くも社会からはずれてしまったそのアデ姿に、ただただ感動!!

月刊ガロ年間新人大賞 長井勝一賞 募集のお知らせ

月刊『ガロ』は、1964年の創刊以来、商業的には小さいメディアながらも、常に新しい才能を発掘し、新しい表現分野を開拓してきました。『ガロ』からデビューされた作家の方々は、単に漫画という一表現にとどまらず、様々な分野で活躍されている方も少なくありません。また『ガロ的』という言葉も、やはり単なる漫画という一ジャンルのものではない筈です。ですから、漫画作品として優れている事はもちろん、今後の幅広い活躍を予感させる、ユニークかつ独創性のある作品を募集します。

商業誌に未発表作品であれば、従来の「漫画」という様式に囚われない斬新な作品でも結構です。(ただし作品として完成されたもの)

今後『ガロ』への投稿作品はすべて長井勝一賞の選考対象となります。

※応募要領※

①原稿内枠サイズは、天地が273㎜・左右184㎜です。
②一色で、墨汁または黒インクを使用のこと。
③せりふ、ナレーションは鉛筆で入れること。
④うす墨は不可。中間色はスクリーントーンを使用してください。
⑤原稿用紙全体の大きさは問いませんが、断ち切りは15㎜以上延ばして下さい。
(従来のガロ投稿作品要領と同じです)

※応募規定※

※年齢・性別などは一切問いません。
※必ず原稿の最終頁の裏に、住所、氏名、年齢、電話番号を記入して下さい。
※原稿返却希望の方は、切手貼付の上、返信用封筒を同封して下さい。

**投稿宛先　〒101 東京都千代田区神田神保町1-62
(株) 青林堂　長井勝一賞選考係**

審査員長　長井勝一 (青林堂会長)

他審査委員に漫画家・作家・イラストレーターなど多彩な方々をお迎えする予定です。(決定次第誌上で発表いたします)

※選考結果の発表は、月刊ガロ誌上で行う予定です。勝手ながら、お手紙やお電話でのお問い合わせは一切お断りさせて頂きます。

マンガ評論新人賞設立

日本の現代マンガは、質的にも量的にもきわめて高度な発達を遂げ、諸外国からの関心も高まっている。しかし、実作に比して評論・研究は著しく遅れ、各種マンガ賞がマンガの実情を必ずしも反映しなかったり、ジャーナリズムのマンガ論議が的外れであったり、という遺憾な現象もしばしば見られる。このような現状を憂慮し、マンガ評論・研究の深化と拡大をはかるため、マンガ評論新人賞を設立する。

一九九二年五月一日

詮衡委員会（五十音順）
呉智英
村上知彦
米沢嘉博
協力「ガロ」編集部

要
1賞の種類と賞金
①マンガ評論新人賞（五十万円）
②同奨励賞（十万円）
③佳作
各賞に人数の枠は設けない。また、本誌掲載の場合、賞金の他に規定の原稿料が支払われる。

2応募資格
新人であること以外、年齢・性別・国籍等は一切問わない。新人とは、マンガ評論・研究の単行本を出したことのない者とする。ただし、自費出版はこの限りでない。マンガ隣接の文芸・映画・美術等の評論・研究の単行本を出したことがある応募希望者は、問合せをされたい。

3評論の対象・形式
現代マンガに対する未発表の評論・研究。種類や形式は限定せず、作家論、作品論、マンガ史研究、評論史研究、ルポルタージュ等を広く含むものとする。現代より前のマンガや外国のマンガに関するものも、現代マンガを考える上で有益なものは本賞の対象となる。

4詮衡
詮衡委員会の合議による。各委員のマンガ論・マンガ観と対立する作品であっても、そのことによる詮衡上の不利益は一切生じない。

5枚数・その他
四〇〇字詰原稿用紙で五〇枚前後。内容によっては三〇枚程度の作品も考慮する。ワープロ原稿も可。いずれも、日本語・縦書き、点字原稿は墨字訳を付ける。必要な図版類があれば、出典明記の上、コピーを貼付する。また、本文の後に、住所・氏名・電話番号・生年月日・最終学歴・職業を記した別紙を添える。応募原稿は返却されない。

6締切り、発表
毎年十二月十日を締切りとする。結果は翌春の「ガロ」誌上で発表される。

7本賞の存続
本賞の賞金および掲載作の原稿料は、呉智英『現代マンガの全体像・増補版』（史輝出版）の印税によってまかなわれる同書の印税発生がなくなった場合本賞の継続が中止されることもある。

8あて先
〒101 東京都千代田区神田神保町
一―六二 青林堂内
「マンガ評論新人賞」係